

講座・分科会 13:00~16:00

注 各講座・分科会のテーマの下にある「カリキュラム 年次 課」は、「学童保育指導員研修カリキュラム」の科目に対応しています。

学童保育入門

(^_^)今年、保護者・指導員となられた方へお薦めです

1 . 学童保育へようこそ！

～ 今年、学童保育に子どもを預けたあなたへ ～

【講師】松崎波留美（寄居町鉢形はりきりクラブ指導員）

学童保育はいかがですか？お子さんは楽しく通っていますか？学童保育の行事や父母会に参加されてどうお感じですか？

この講座では、まず、「学童保育とは子どもと親にとってどういう場なのか」をお話しさせていただき、その後、参加者から質問に答える形式で進めます。子どもたちの生活のこと、指導員のこと、父母会や父母の関わりのこと等、何でも相談してください。

参考図書『学童保育のハンドブック』（一声社刊）

2 . 指導員になりたてのあなたに

～ 学童保育って何だろう、指導員の仕事って何だろう ～

カリキュラム 1年次1 - (1)(2)課

【講師】坂内亮司（さいたま市大砂土学童保育所指導員）

「子どもに関わる仕事がしたい」とこの仕事を選んだあなた、実際の仕事はどうですか？子どもとうまくいっていますか？先輩指導員との関係はどうですか？父母会や地域、行政との関わりなどもあって「学童保育っていったい...」ととまどっているのではないですか。

新人指導員さん、2ヶ月過ごしてみて、率直な気持ちや悩み、とまどいを出してください。講師を中心にみんなで考え合いたいと思います。

参考図書 『学童保育のハンドブック』（一声社刊）『テキスト指導員の仕事』

（全国連協刊）『入門ガイド 学童保育指導員』（大月書店）

生活づくりを豊かに

(^_^) “指導員力”をもっともっとつけたい方へお薦めです

3 . 学童保育の生活づくり（保育）ここを大切に

カリキュラム 1年次1 - (1)課 2,3年次3 - (1)課

【講師】亀卦川 茂（富士見市水谷放課後児童クラブ指導員）

子どもが喜んで学童保育に通ってくれなければ、親たちは安心して働き続けることができません。学童保育が一人ひとりの子どもたちが安心できる場になるよう、指導員はいっぱい悩みながら様々な努力・工夫をしています。学童保育の生活づくり（保育）でどう進めるかを学びます。

4 . 指導員の仕事に求められる倫理

カリキュラム 1年次1 - (3)課

【講師】竹内れい子（草加市両新田学童保育所指導員）

親にとって指導員は、子どもの放課後を託した人、子どもたちにとってはその時間帯では一番頼りになる大人です。子どもたちの命と発達に携わる指導員は、その仕事にふさわしい職業意識やモラルを求められます。それはどういうものであるかを学びます。

5 . 一緒に子育て 学童保育

～ 保護者と指導員で、保護者同士で伝え合う子どものこと ～

カリキュラム 1年次1 - (1)課

【講師】小沢明子（さいたま市三橋学童保育所指導員）

子育て情報は巷にありあふれていますが、子育てはマニュアル通りにはいかないもの。「自分を出せる」学童保育の場で子どもたちは素顔を見せています。子どものことは指導員に聞きましょう。指導員はもっと親に話しましょう。親同士ももっと仲良くなりたいたいものです。そんな関係の大切さ、どうしたらそんな関係をつくっていけるのかを学びましょう。

子どもの見方を深める

(^_^)子どもの育ちを見る目・関わる力をもっとつけたい方へお薦めです

6 . 生きる知恵と本物の学力を子どもたちに！

カリキュラム 2,3年次2 - (1)課

【講師】渡辺恵津子（上尾市立西小学校教諭）

日本の子どもの「学力低下」が指摘され、文科省は「ゆとり教育」の見直しを言い出しています。「『できる』けれども『わからない』学力」「勉強すれど自信（自己肯定感）の持てない学力」??日本の学力政策はどうも成功していないようです。学校はどんな

っているのか、何が問題なのか。そして、ヒトとして生きること
に役立つ知恵と学力を育てるために親は学校は何をしたらよいか
ベテランの渡辺先生と考えます。

7. 「学童保育の子が、我が子がわ からない」とお悩みのあなたへ

～ 子どもの育ちをどう見て、関わったらよいか 知りたい～

カリキュラム 1年次2-(1)(2)課

【講師】金子由美子(川口市立領家中学校養護教諭)

「うざい!」「死ね!消えろ!」言葉が荒い。すぐにキレる、手
も出る。でも、家庭では別な顔も見せ「良い子」らしい?...「仲
良し」を装わないといけない友だち関係、「よい子」を強いられる
生活等でストレスを貯めているのでは...。思春期前期ともなると
もっと分からない...。子どもの心を分かりたい。ベテランの養護
教諭の金子先生と考えます。

8. 親子で楽しくおいしく食べよ

～ 子どもの生活を「食」から考えましょう～

カリキュラム 1年次2-(1)課

【講師】安藤節子(「たべもの文化」編集長)

「夜型生活」の影響で朝食を食べて来ない子、「ダイエット」と
称してきちんと食事を摂らない子。生活習慣病などの食習慣の問
題や食物アレルギーにアトピーの問題。今日、「食」をめぐる問題
は実は深刻。本当は、規則正しく、家族して、おいしく栄養ある
ものを食べたいものです(現実にはトホホですが...)。専門家の方と
一緒に考えましょう。

9. ストップ!子ども虐待

～ 児童虐待の加害者と被害者を増やさないために～

【講師】福田智雄(国際学院埼玉短期大学講師)

児童虐待が後を絶ちません。追いつめられた母子関係の問題も
指摘されています。行政も虐待防止ネットワークづくりなどに力
を入れ、学童保育にも相談が寄せられています。児童虐待とは何
か? 児童虐待の実態と対応 大人として社会としてどう対
応していくか 考えます。

障害児の理解を深める

(^_^)障害のある子どもの育ちと支援を理解したい方へお薦めです

10. 障害児と一緒に育つ

～ 学童保育と家庭とでどう協力して障害児を育てるか～

カリキュラム 2,3年次2-(2)課

【講師】小淵隆司(千葉県鎌ヶ谷市子育て支援センター)

働くことと子育ての両立には様々な苦勞が伴います。子どもが
ハンディキャップを持つ場合であればなおさらです。それだけに、
わが子が友だちと関わる中で変化・成長が見られると喜びもひと
しおです。障害児の親の願いは何か、障害児を含めた生活をどう
つくるか、学童保育と家庭とでどう協力し合うかについて学び合
います。

参考図書 『障害児と学童保育』(大月書店)

11. 障害児と一緒に育つ

～ LD、ADHD、高機能自閉症児の子どもたちを理解するために～

カリキュラム 2,3年次2-(2)課

【講師】橋口亜希子(NPO法人えじそんくらぶ「静岡Wish」
顧問)

落ち着かない、ひとの話が聞けない、言葉の前に手が出てしま
う。けれど、実力がない訳ではない。「ちょっと気になる子」と言
われる子ども。「LD」「ADHD」と特別扱いのレッテルを貼れ
ば解決することではありません。そうした子どもをどう理解し、
支援していくか、学童保育の生活の中で何ができるかを考えま
しょう。

12. 障害児学童保育の分科会

～ 障害児学童保育とは何か? 現状と課題～

【講師】清水 均(埼玉県立三郷養護学校教諭)

障害児学童保育は子どもの放課後の生活の場、親たちの家庭と
生活を援助する場。国も、「放課後タイムケア事業」をスタートし
ました。数は増えていますが、保育内容をどうつくるか、施設の
確保、指導員の厳しい労働条件等、課題もたくさん...。障害児学
童保育とは何か、課題をどう解決するかをずっと関わってくれて
いる清水先生と一緒に考えます。

参考図書 『障害児と学童保育』(大月書店)

13. 障害児学童保育の分科会

～ 思春期の子どもへの対応、子どもの「問題行動」を考える ～

【講師】谷森櫻子（“人間と性”教育研究協議会・障がい児サークル世話人）

障害児学童保育の対象は、小学部から高等部まで年齢幅の広い子どもたちです。ですから、思春期の子どもたちへの対応は悩ましい問題です。また「問題行動」と思われる行動に対する対応も同様です。親として、指導員としてどう対応したらよいかを谷森先生と一緒に考えます。

よりよい学童保育の条件・施策をつくる

(^_^) “学童保育運動力”をパワーアップしたい方にお薦めです

14. 集まれ！父母会長

～ “みんなでつくる、みんなの父母会”ってどうしたらできるだろう～

【世話人・助言】柄澤悟（県連協運営委） 中野実雄（さいたま市指導員）

保護者会（父母会）は子育てを交流し、行事などを計画し実行する場（民間学保では運営責任も）...はず。けれど、「集まりがよくない」「役員になり手がいない」「行事が多いと言われる」等、父母会役員になると悩みが付きません。生き生きした父母会をどうやってつくるか出し合いましょう。

15. “学童保育運動力”をつける！

～ 「指定管理者制度」と「運営基準」運動の“知恵と力”をつける～

【講師】木田保男（全国連協事務局長） 山本和順（県連協事務局長）

制度・施策の改善はなかなか進みません。そればかりか、国は「三位一体改革」によって自治体予算を絞り、「指定管理者制度」による公的責任の後退、「全児童対策事業」の動きもあります。しかし、埼玉の学童保育には保護者と指導員との共同という大きな力に、「放課後児童クラブ運営基準」という大きな武器が加わりました。“学童保育運動力”をつけましょう。

16. 子どもを大切にできる国・しない国

“学童保育運動力”をつける！ 児童福祉をめぐる情勢と私たちの課題

【講師】浅井春夫（立教大学コミュニティ福祉学部教授）

少子化対策や子育て支援の必要が強調されるのに、何故か改善しない『日本の現実。加えて、「官から民へ」の名の下、「指定管理者制度」等によって公的責任を後退させる動きがあります。子育てに悩む親と指導員の視点からこの病魔の原因と解決策を考えます。合わせて学童保育の「保育の質」を向上させるために何をしたらよいかを考えます。

参考図書 浅井春夫『子どもを大切にできる国・しない国』（新日本出版社）

第34回研究集会 特別企画

17. 特別シンポ「子どもを守る」

～ 子どもたちに安心して安全な生活・放課後を保障するために ～

【進行】薄井俊二（県連協会長）

【シンポジスト】小宮純一（埼玉新聞記者）（行政担当者）
垣見尚哉（新座市保護者） 山本博美（草加市指導員）

昨年11・12月、広島県、栃木県今市市に起きた小学校女児殺害事件を受けて、子どもをどう守るのが大きな社会問題となっています。「防犯」の観点から必要な対策を講じることも必要です。しかし「防犯」の強化によって子どもたちの生活空間が息苦しくなっていくのは...。最も自由であるはずの放課後はどうなってしまうのか？また、現時点で「安全」のことがクローズアップされるのも仕方ないにしても、子どもたちの心身の安心・安全の問題はそれにとどまりません。

今回のことをきっかけに、改めて、「子どもを守る」とはどういうなのか？大人として何をしたらよいか？学童保育として何をしなくてはいけないか？地域の中に子どもを守り育てるネットワークをどうつくっていくか等々をみんなで考えます。